

本邦の循環器医のキャリア形成の現状と影響因子を検討した論文です

循環器領域に携わる若手医師は減少傾向にあり、その育成は重要な課題です。しかしながら、循環器医のキャリア形成に影響する因子や現状についてはよく知られていません。

1、研究方法

2022 年 9 月に日本循環器学会の医師会員 14798 名に対し、グーグルフォームを用いてキャリア形成に関するアンケートを行い、2566 名（17.3%）から回答を得ました。アンケートでは、研修の機会の平等性、留学希望や全体的な満足度と、それに影響し得る因子について調査しました。

2、主な結果：キャリア形成の現状と影響因子

● 回答者の背景

2566 名の回答者のうち、女性は 624 名（平均年齢 45.6 歳、うち 45 歳未満は 47.4%）、男性は 1942 名（平均年齢 50.0 歳、うち 45 歳未満は 33.7%）で、86.9%が循環器内科医でした。循環器領域における専門分野（サブスペシャリティ）は虚血分野が最多でしたが、45 歳未満に限るとサブスペシャリティ「なし」または構造的な心疾患（弁膜症など非冠動脈心疾患）が上位となりました。全体の 50.7%が育児中、7.9%が介護中、7.2%が両方を担っていました。

● 研修機会の平等性、留学希望や全体的な満足度と影響する因子

男性と比べ女性では、不平等感が高く、留学希望と満足度が低いという結果でした。これらの傾向は若手、育児や介護を担っている場合とメンターが不在である場合において顕著に見られました。特にメンター不在は高い不平等感、留学希望なし、低い満足度すべてに有意に関連していました。（図 1）

● 地域性について

都道府県ごとの循環器学会所属医師数と女性比率をみると、西高東低、東京一極集中の状態が見られました（図 2）。東京都、佐賀県、四国で女性比率は高値でした。女性循環器医の人数比率（11%未満、11-14%、14%以上）で分類したところ、女性循環器医の比率が高い地域ほど男性循環器医の不平等感が少なく、留学希望が多くなる傾向が見られました。

3、考察と今後の展望

女性、若手、育児や介護、メンター不在がキャリア形成に影響を及ぼしていることがわかりました。

育児や介護に関しては、柔軟性のある勤務形態や業務分担を推進することで循環器医の

ワークライフバランス改善の一助になる可能性もあります。
メンターは健全なキャリア形成に重要と考えられています。良きメンターに出会えるようなシステム形成も望めます。

図1 A. 不平等感、B. 留学希望、C. 満足度への影響因子とオッズ比

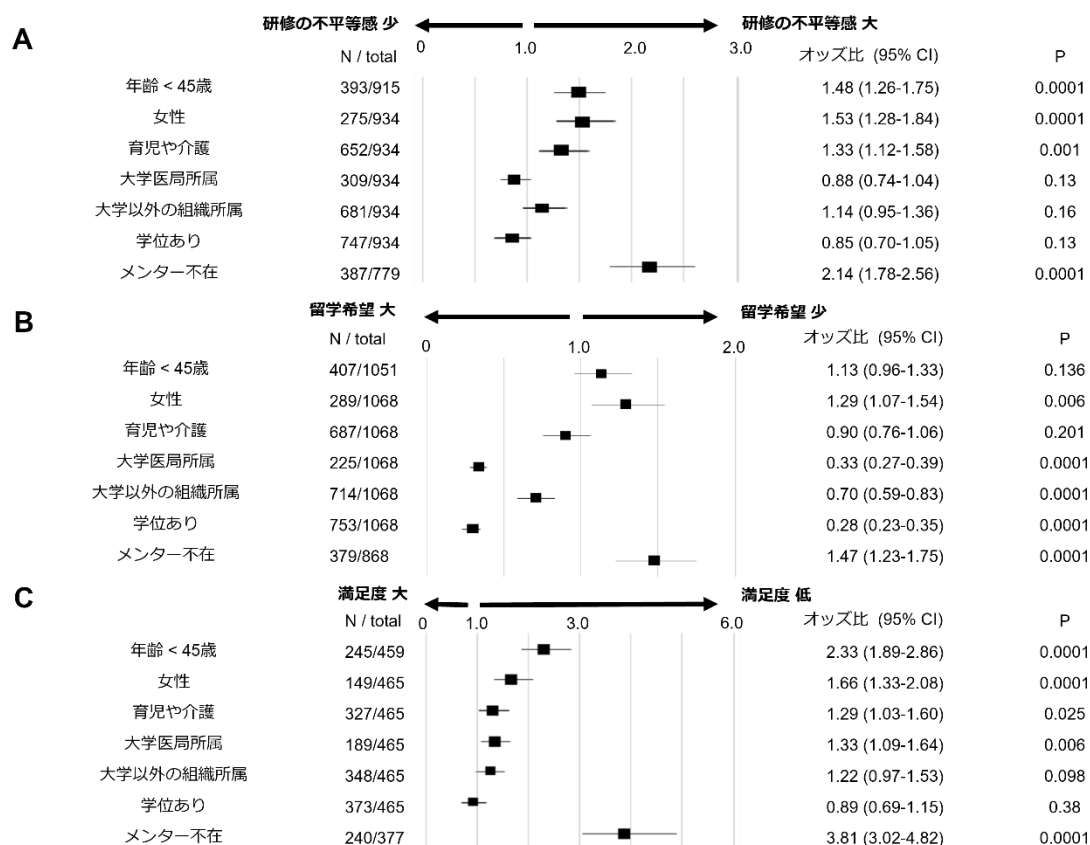
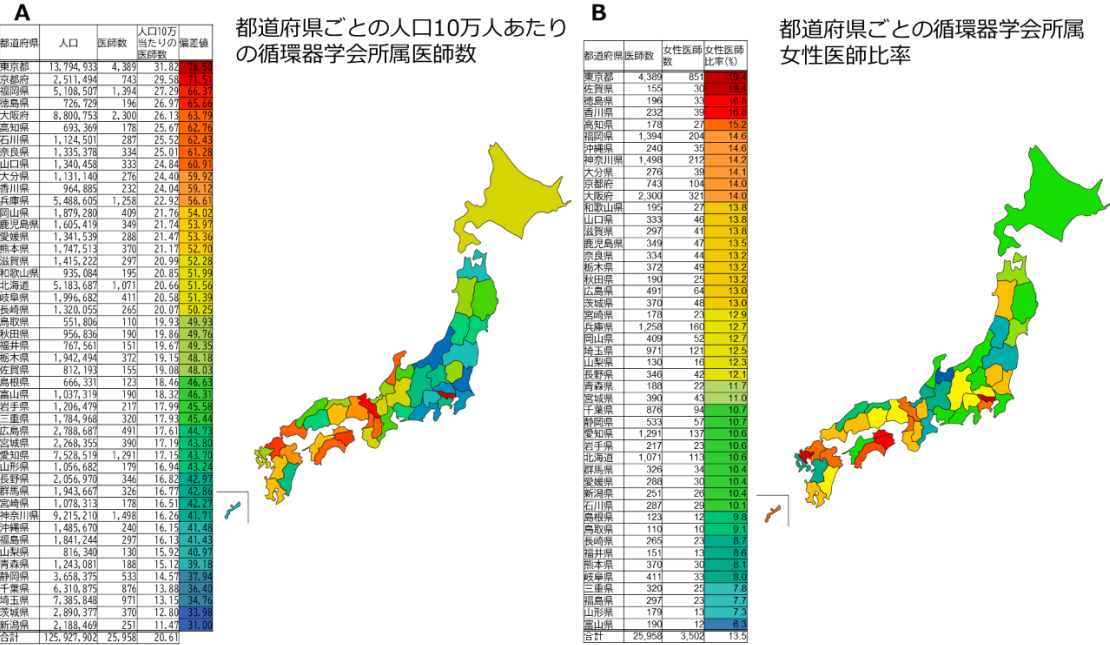


図2 都道府県ごとの A. 循環器学会所属医師数、B. 循環器学会所属女性医師比率



発表論文

タイトル：A national survey identifying the factors affecting the career development of cardiologists in Japan

雑誌：Circulation Journal

著者： 西崎史恵（弘前大学）
新保麻衣（東京大学）
福江宣子（三田尻病院）
松本知沙（東京医科大学）
野間さつき（日本医科大学）
大野聡子（久留米大学）
神谷千津子（国立循環器病センター）
神吉佐智子（大阪医科薬科大学）
井手友美（九州大学）
井澤英夫（藤田医科大学）
谷口達典（大阪大学）
中山敦子（榊原記念病院）
小林欣夫（千葉大学）